

鐵道安全報告書

2020 年



嵯峨野觀光鐵道株式会社

鉄道安全報告書（2020年）

I. ごあいさつ

II. 安全確保に関する基本方針

III. 安全管理体制

IV. 事故等の発生状況

V. 安全確保に向けた昨年度の取組み

VI. 今後の安全確保に向けた取組み

VII. お客様へのお願い

VIII. 安全報告書等に対するご意見について

I. ごあいさつ

平素は、弊社の鉄道事業に対しまして、ひとかたならぬご理解とご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社は、京都の地で1991年4月に、嵯峨嵐山から亀岡までの保津川沿線の景勝地を結ぶ観光鉄道として事業をスタートし、多くのお客様そして地域みなさまに支えられながら、29年目を迎えました。この間、お客様の「安全・安心」を第一と考え、安全管理体制の充実、施設・設備の維持更新、車両等の保安度向上及び乗務員等の異常時対応能力の向上に努めてまいりました。

2018年度からは、新たな安全に関する5ヶ年計画である「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」に基づき、JR西日本グループの一員として取り組みを進めてまいりました。さらに今年度からは、新たな到達目標として「組織で安全を管理する体制の強化」、「自分ゴト化、みんなゴト化による安全意識、安全への取り組みの強化」、「安全への設備投資、修繕費投入」を安全の三本柱とし、その到達に向けたPDCAサイクルを繰り返すことにより、より高いレベルの安全性向上を目指しております。

2019年度は、水害により2件の輸送障害が発生しましたが、2014年度より斜面防災対策として取り組んできた沿線土木設備強化の効果もあり、最小限の影響にとどめることが出来ました。また、走行中の列車が倒木を発見し、緊急停車するという輸送障害が2件発生しましたが、いずれも乗務員の迅速・的確な行動により、お客様の安全を確保し、お客様へのご迷惑を最小限にとどめることが出来ました。

一方、安全の確保につきましては、継続的に取り組んでいるホーム上の安全対策に加え、お身体の不自由なお客様、あるいはお手伝いが必要なお客様に、社員より積極的にお声かけをするとともに、放送やポスターによりお客様にもご協力をお願いするなど、ホームからの転落防止のためのソフト対策も講じてきました。また、乗務員等のきめ細かな異常時訓練の実施、リスクアセスメントの充実など、更なる安全性向上に向けた取り組みを行ってまいりました。

なお、新型コロナウイルス感染症予防対策として、国土交通省や厚生労働省からの要請及び「鉄軌道事業における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」に基づき、車両や駅設備の定期的な消毒、お客様用消毒液の設置、車両や駅舎の窓開けによる換気、駅窓口へのビニールカーテンの設置、お客様へのマスク着用のお願ひなどの対策を実施するとともに、従業員の罹患防止対策にも取り組んでおります。

今後も一層の安全性向上に向けた取り組みが必要と考えており、お客様に安心信頼してご利用いただけるよう、安全確保を最優先課題として、ハード・ソフト両面からの対策に万全を期してまいります。

本報告書をご高覧いただき、ご意見をいただければ幸甚です。

2020年9月

嵯峨野観光鉄道株式会社 代表取締役社長 井上 敬章

Ⅱ. 安全確保に関する基本方針

弊社の「企業理念」の第一項に「私たちは安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける観光鉄道を築き上げます。」と唱え、その理念を具現化するために以下の「安全憲章」を制定しています。また、安全管理規程には、安全に関する基本的な方針として「社長、役員、社員等の安全に係る行動規範」を次のように定めています。

(安全憲章)

1. 安全確保のためには、全社員が一同となって協力しなければならない。
2. 安全確保のためには、基本動作の実行、確認の励行、及び連絡を密にしなければならない。
3. 事故が発生した場合は、お客様の救護が第一である。

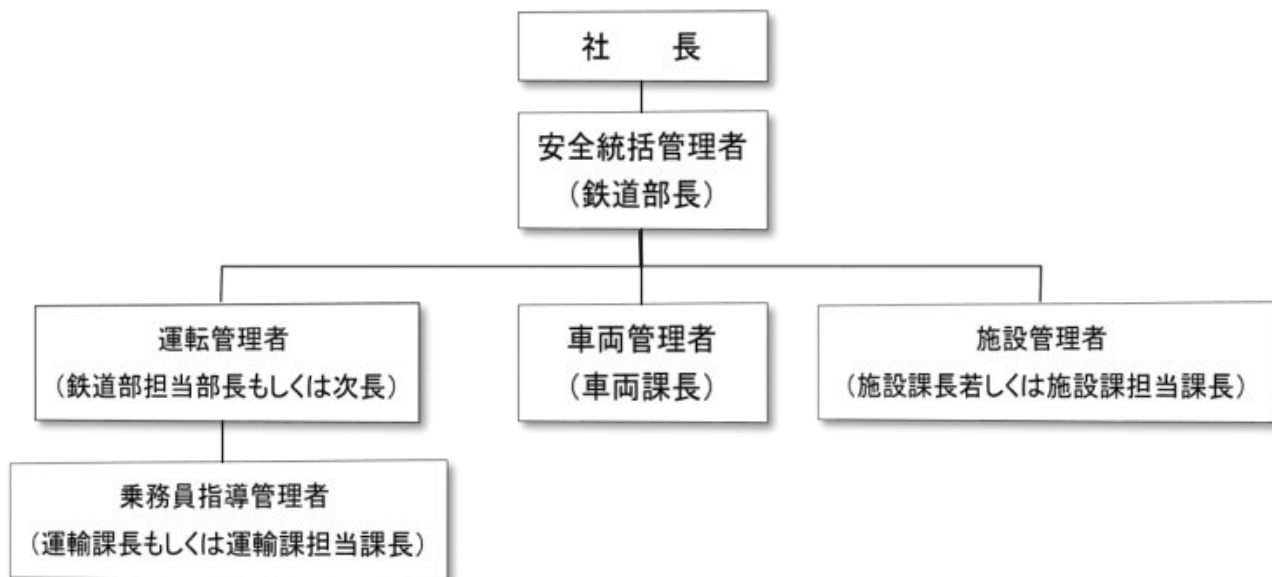
(社長、役員、社員等の安全に係る行動規範)

1. 一致協力して輸送の安全の確保に努めなければならない。
2. 輸送の安全に関する法令等をよく理解するとともに、これを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行しなければならない。
3. 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めなければならない。
4. 職務の遂行に当り、推測に頼らず確認の励行に努め、疑わしい時は最も安全と思われる取り扱いをしなければならない。
5. 事故、災害等が発生した時は、人命救助を最優先し、すみやかに安全適切な処置をとらなければならない。
6. 情報は漏れなく迅速、正確に伝え透明性を確保しなければならない。
7. 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦しなければならない。

Ⅲ. 安全管理体制

弊社では、2006年10月1日に制定した「安全管理規程」において「輸送の安全を確保するための基本的な方針」、「輸送の安全の確保に関する事業の実施及び管理の方法」等を定め、安全管理体制を明確にするとともに、具体的かつ様々な取組みを積み重ね、事故防止に取り組んでいます。

【安全管理体制】



【役職及び役割】

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
運転管理者	安全統括管理者の指導の下、運転に関する事項を統括する
乗務員指導管理者	運転管理者の指導の下、乗務員の資質の維持に関する事項を統括する
車両管理者	安全統括管理者の指導の下、車両に関する事項を統括する
施設管理者	安全統括管理者の指導の下、施設に関する事項を統括する

IV. 事故等の発生状況

1. 鉄道運転事故(省令に定められた列車衝突事故などの事故)

昨年度は、鉄道運転事故は発生しませんでした。今後とも安全輸送に努めてまいります。

2. 輸送障害(列車に運休または30分以上の遅延が発生したもの)

昨年度は、輸送障害が6件発生しました。主な事象につきましては、以下の通りです。ご利用のお客様には、大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

(1) 2019年6月15日(土)

10時03分、風速が規制値となったため、第113列車は速度15km/h以下での徐行運転を行った。その後も断続的に規制値に達し、徐行運転を行ったため、終日列車が遅延した。

(2) 2019年6月20日(木)

16時58分頃、第126列車は2k100m(トロッコ嗟峨駅起点、以下同じ)付近にて倒木を発見し緊急停車。処理班が駆け付け伐採処理を行い、17時35分に運転を再開した。

(3) 2019年8月16日(金)

台風10号接近に伴う大雨により、5時38分に24時間の連続雨量が規制値に達したため、第111列車は速度15km/h以下での徐行運転を実施。その後も徐行運転を継続して行い、終日列車が遅延した。

(4) 2019年10月12日(土)

13時37分頃、第120列車は6k300m付近にて倒木を発見し、緊急停車。運転士は処置は困難と判断し、駅長と打ち合わせたのち、トロッコ亀岡駅まで引き返した。15時07分に処理班による倒木処理は完了したが、台風19号の影響を考慮し上下6本の列車を運転休止した。

昨年度は水害、風害、倒木など自然災害による輸送障害が5件発生しました。斜面防災対策につきましては、最重要課題と認識し、引き続き取組みを進めております。

今後も安全安定輸送の確立に向け、対策を講じてまいります。

3. インシデント(事故の予兆)

昨年度は、国土交通省へのインシデント報告に係る事故等は発生しませんでした。

4. 行政指導等

昨年度は、国土交通省の行政指導等は、ありませんでした。

V. 安全確保に向けた昨年度の取組み

昨年度は、以下のハード・ソフト対策の取組みを行いました。

1. ハード対策

(1) 車両関係

① A T S（自動列車停止装置）車上装置の更新

ATS車上装置を従来のアナログタイプから、デジタルタイプへと更新しました。これにより経年劣化防止、安定性向上、接触不良低減が図れ、機器としての信頼性が大幅に向上しました。また自動試験機能、モニタ機能が追加され、メンテナンス性も向上しました。

② 車側表示灯のLED化

車掌がドアの開閉状態を確認するための車側表示灯を、従来の電球式からより視認性の高いLED式としました。これにより、明るい日中においても確認が容易となり、ドアの状態を確実に確認できるようになりました。



③ 脱線復旧機材の作製

万が一列車が脱線した場合、線路に載線する際に車両と台車を緊締する金具を作製しました。



(2) 施設関係

① 落石防護柵の修繕

経年劣化や倒木による破損箇所を修繕し、災害対策を強化しました。



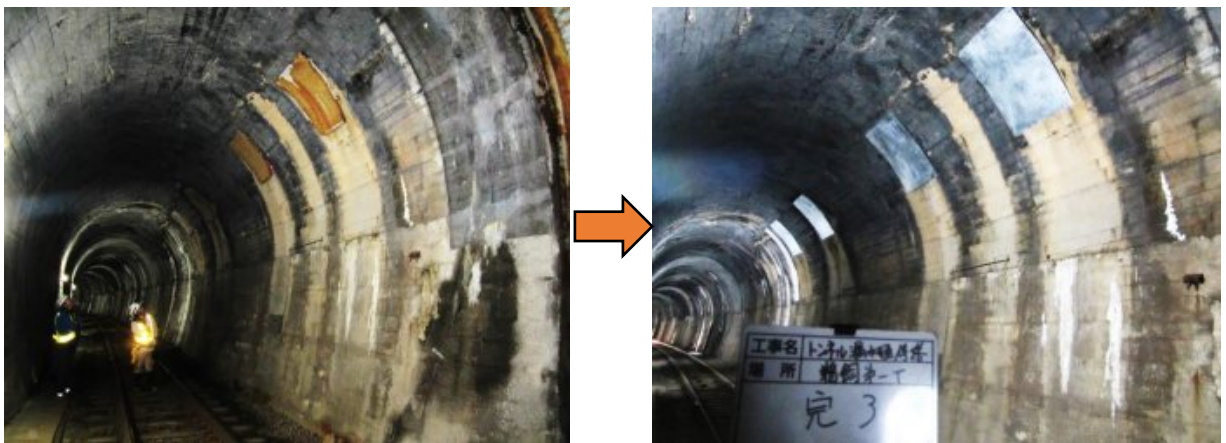
② 橋りょう橋桁修繕

経年劣化した橋りょうの橋桁を塗装修繕しました。



③ トンネル覆工修繕

トンネル内への漏水を防ぐトンネル覆工を補強修繕しました。



④ 擁壁上の排水対策

降雨時に擁壁の背面（山側）に大量の水が溜まると、擁壁や土砂が崩壊する恐れがあるため、堆積した土砂等を計画的に取り除き、排水対策を実施しました。

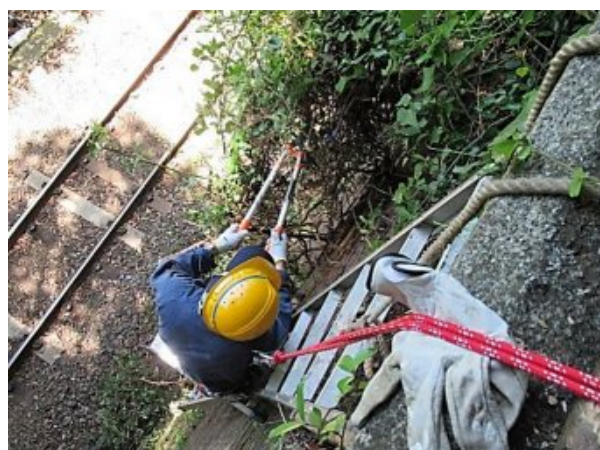


⑤ 倒木対策等

倒木の恐れのある木（朽木や大きく傾いた木など）をあらかじめ調査し、計画的に伐木しました。また、車両に接触する恐れのある枝についても、同様に伐採しました。



【倒木リスクのある木を伐木】



【擁壁から伸びた枝を伐採】

⑥ ホーム点状ブロックの整備

昨年度はトロッコ保津峡駅ホーム上の点状ブロック（内方線付）の新設を行いました。これにより、全4駅への整備が完了しました。また、トロッコ亀岡駅の点状ブロックの老朽取替えを行いました。



【トロッコ保津峡駅】



【トロッコ亀岡駅】

⑦ その他



【劣化により視認性が低下した運転諸標の取替え】



【技術継承を目的とした直轄作業によるマクラギ交換作業】



【徒歩による線路巡回検査】

(3) 電気関係

沿線の樹木には、夜間のライトアップ照明がありますが、樹木のない一部の区間に保安灯を新設し、万が一の避難誘導に備えました。



2. ソフト対策

(1) 大規模訓練の実施(2020年2月27日)

地元警察、消防、JR 亀岡駅等と連携して、爆破テロを想定した訓練を実施しました。



【消防による負傷者の救出・救護活動】



【警察による不審物の撤去作業】

(2) 乗務員訓練

① 現車講習

現車において、車両故障時の応急処置訓練などを行なっています。



② 机上講習

机上講習では、乗務員としての知識の維持、向上を図っています。

(3) 作業前 KYT の実践

沿線作業前には、作業における危険のポイントを洗い出し、対策を立て全員で確認し合います。



(4) 応急手当の知識・技術の習得 (2020年1月22日)



【消防による普通救命講習】

(5) リスクアセスメント委員会でのリスク評価・低減策の検討
 委員会での検討内容については「リスク便り」を作成し掲示板にて社員間で共有しています。



(6) J R 西日本からの工務関係技術支援

認定事業者である JR 西日本より、施設・電気関係についての技術指導及び当社設備の巡回を行っていただき、技術力の向上及び設備の維持管理状態の確認を3か月に一度のペースで実施しています。



(7) 工務関係従事者（協力会社）への安全教育（2019年9月21日）



VI. 今後の安全確保に向けた取組み

【到達目標】（「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」に準拠）

2022年度までの5年間の到達目標

- お客様に死傷を及ぼす運転関係事故※ . . . 「0」
- 重大労災（死亡及び後遺症が残る労災） . . . 「0」
- 列車の駅間長時間停車（概ね1時間） . . . 「0」

※運転関係事故とは、当社の責や不注意によって引き起こされる鉄道運転事故及び旅客のホームからの転落事象をいう。

2022年度の目標到達レベル

○ 安全意識の向上

- ・「危険と感じた時」、「安全が確認できない時」はまず列車を止める行動が定着している。
- ・気がかり・ヒヤリハット等を報告し、対策について活発に意見が交わされ、重大事故の未然防止につながっている。

○ 異常時対応能力の向上

- ・列車が駅間において事故等で長時間停車した場合、迅速に役割分担に応じたお客様救護ができる体制が整っている。

バージョンアップ

2025年度の目標到達レベル

○ 組織の安全管理の充実

- ・リスクを可視化し、可能な限りハード対策を実施し、必要な改善を継続すると共に、残留リスクに対してはソフト対策でリスクを抑え込み、更にPDCAサイクルを確実に回すことで、安全性が向上し続けている。
- ・リスクアセスメント鉄道部分科会の活性化と質的向上により、安全性向上の発信の場、課題解決の場となっている。

○ 自分ゴト、みんなゴト化による安全考動の実践

- ・OB減少に伴うプロパー社員主体の経営を前提に、生抜き社員がJRとの交流を深めること等により必要な技術力を有し、社内での情報共有により、個々人が安全に向けた考動を実践している。
- ・異常時の対応能力向上に向け、車両応急処置能力及びお客様救助の安全かつ迅速化を図り、過去の成功事例、失敗事例を吸収しつつ、いつでも対応可能な体制を構築している。

○ 安全・事業継続に必要な投資

- ・老朽化防止や自然災害対策に向けた線路や土木構造物、斜面等の地上設備に必要な設備投資、修繕費を計画的に投入し、常に重大なリスクを封じ込めている。
- ・新型車両導入の投資決定がなされ、嗟嘆野ナイズされた展望車両の設計をJR及びグループ会社と共に開発し、保安度の向上も含め、新型車両の運行開始に向けた準備が整っている。

【基本方針】

2020年度は、2018年度より進めてきた「ゼロ・ゼロ・ゼロ」継続への取り組みをさらにバージョンアップし、2025年度を見据えた新たな到達目標である①**組織で安全を管理する体制の強化**、②**「自分ゴト」、「みんなゴト」化による安全意識、安全への取り組みの強化**、③**安全への設備投資、修繕費投入**を三本柱とし、その達成に向けたP D C Aサイクルを繰り返すことにより、より高いレベルの安全性向上を目指していくこととします。

具体的には、リスクアセスメントにより可視化されたリスクへの対応、管理を継続的に実施する体制の確立、J Rなどとの交流を深めることにより得られた知識・技能の水平展開による安全意識の向上や異常時対応能力の向上、計画的な自然災害対策や車両更新へ向けた計画の推進など、これらを社員共通の価値観とし「チームトロッコ」として目標達成に向かっていきます。

【重点実施項目】

I. 組織で安全を管理する体制の強化

1. 安全マネジメント体制の継続的な機能向上

- (1) 鉄道事業者としての責務を認識
- (2) トップ方針を浸透させる仕組みを見直し
- (3) 組織間連携と風通しの良い風土を醸成
- (4) 「安全推進会議」を充実させ、重大な事故・労働災害の未然防止

2. リスクアセスメントの仕組みの確立と実行

- (1) リスクアセスメント委員会鉄道部分科会の考動
- (2) リスクアセスメント等の取組みを通じたモチベーションを向上させる仕組み充実

II. 「自分ゴト」「みんなゴト」化による安全意識、安全への取り組みの強化

1. 深める（自分ゴト化→各エキスパートの育成）

- (1) 「全体を知る」取り組み

2. 広げる（みんなゴト化→各場面での協働・共有化）

- (1) 「深める」で得た材料の活用
- (2) 「ほめる」を通じ価値観の共有化(報告しやすい文化の醸成)

3. 事故・労働災害防止と異常時対応能力の向上

- (1) 他社事例に学び、自社残存リスクに対応
- (2) 異常時対応能力の向上

III. 安全への設備投資・修繕費投入

1. 設備の老朽化と自然災害への備え

- (1) 斜面Aランク箇所落石・倒木対策
- (2) 線路及び構造物の強化等体質改善
- (3) 自然災害発生時への備え

2. 車両の老朽化対策と検修作業時の安全性向上

- (1) 車両更新(新車導入)計画の推進
- (2) 検修作業時の安全対策

VII. お客様へのお願い

1. 列車のホーム入駅時における安全の確保について
ホームで入駅中の列車をカメラ等で撮影をされる場合は、点字ブロック(安全線)より内側でお願いします。特に、写真撮影用の自撮棒を使用しての撮影は大変危険ですので絶対にお止めください。
2. 駅ホーム転落事故の防止(視覚障がいのお客様をお見かけした時のお声かけ)について
弊社では、お体の不自由なお客様に積極的に「お声かけ」をしております。お手伝いが必要なお客様がいらっしゃいましたら、皆様も、「一声、お声かけ」をお願いします。
3. スマートフォン等のご使用について
駅構内やホーム、車内でのスマートフォン等の「ながら歩き」は、他のお客様や列車との接触、線路への転落などの恐れがあり、大変危険ですのでお止めください。
特に、駅構内におけるスマートフォンの位置情報を活用したゲームアプリ等のご利用は、お控えいただきますようお願い致します。
4. 列車乗降時の安全確保について
車両とホームとの間に段差や隙間がありますので、乗降の際はお足元にご注意ください。特に小さなお子様をお連れのお客様は、十分にご注意ください。
また、円滑で安全な乗り降りのため、ご乗車されるお客様は全てのお客様が降車された後でのご乗車をお願い致します。
5. 車内への危険物持ち込み禁止
持ち込めない危険物
(1) 可燃性液体……ガソリン、灯油、軽油 など
(2) 高圧ガス ……プロパンガス、液体窒素 など
(3) 火薬類……………弾薬、ダイナマイト など
(4) 毒物・農薬………クロロホルム、除草剤 など
6. 列車の走行中、窓から手や顔を出さないでください
列車は、保津川溪谷に沿って走行しており、沿線の樹木が車両に接近しているところがございます。お怪我の原因となりますので、決して窓から手や顔を出さないでください。
7. 感染症予防についてのお願い
(1) ご乗車の際は、マスクの着用をお願いします。(幼児は除く)
(2) こまめな手洗い・うがい・手指消毒をお願いします。
(3) 施設内では密集しないよう、周囲との間隔をあけてください。
(4) 大声での会話はお控えください。
(5) 体調の優れないお客様は、ご乗車をお控えください。
(6) 車内では窓をお開けいただき、車内換気にご協力ください。
(7) 熱中症予防対策としての水分補給を除き、車内でのご飲食はお控えください。

VIII. 安全報告書等に対するご意見について

安全報告書の内容や安全の取組みに対するご意見・ご質問等は、下記までご連絡ください。

担当部署	嵯峨野観光鉄道株式会社 鉄道部
住 所	〒616-8373 京都市右京区嵯峨天竜寺車道町
電 話	075-871-3997
F A X	075-861-2899
メール	torokko@sagano-kanko.co.jp